

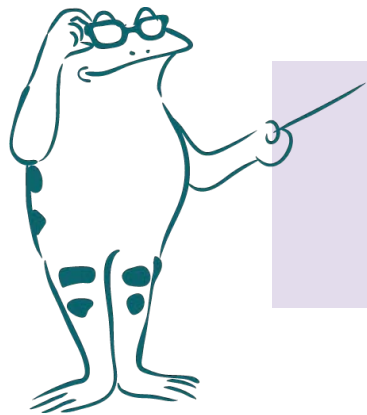
# 2022年度 審判講習会

2023年2月19日

競技運営委員会

# 本講習会の目的

- 競技役員の**業務や役割、心構え**を理解する
- 技術や知識を**確認・アップデート**する



競技会の公正で円滑な運営を実現する

# 本日の流れ

1. 本講習会の目的
2. 2023年適用 新ルール
3. 競技会での役割分担について
4. 各担当の役割と仕事について（用具検査役員、RTS役員、射場役員）
5. 競技役員としての心構え

# 2023年適用 新ルール

講師：岡田亜美

# 新ルール適用まで

- ISSFからルールブックが公開されたのち順次翻訳を進め、国内ルールを公開します
- ①ARバットプレートのルール考え方
- ②ATLの時間
- ③ファイナルルール←new!  
のみ今回簡単に共有します
- 新ルールの講習会は別途実施します

# ①ARバットプレートのルールの考え方

- 定義と可動範囲が明確になりました
- バットプレートは、
  - 上下、左右オフセット (図1)、縦軸 (図2) 横軸 (図3) へ回転できる
  - 各部品を左右に回転できる (図4)
  - 外縁のどの部分も中心線から**30mm**以上出てはならない (図4)
  - 全体の幅は**30mm**以内に収める (図5)
  - 肩に接する最下点まで**20mm**以内の深さ

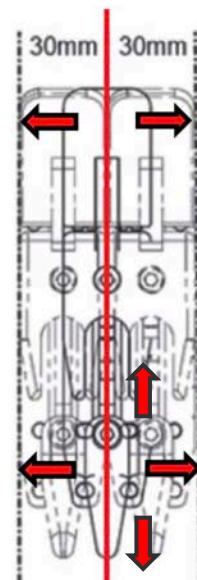


図1：上下、左右への移動

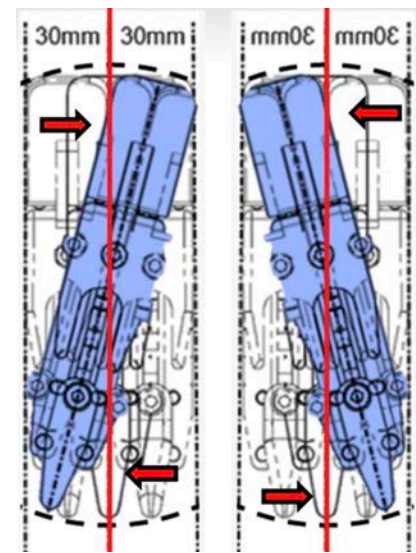


図2：縦軸の回転

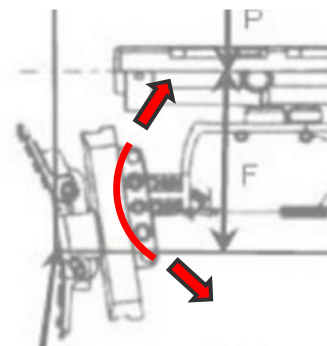


図3：横軸の回転

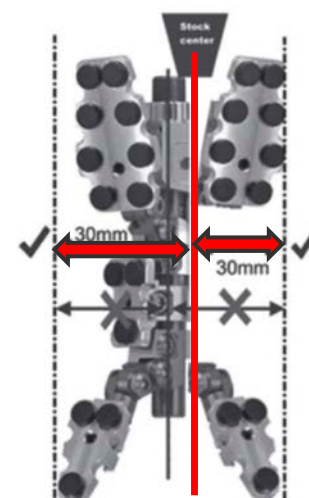


図4：左右の回転



図5：全体の大きさ  
テンプレート

## ②ATLの時間

- ATLは本射開始の**25**分前（10m,50m個人種目）
- 準備時間は**10**分間
- 試射時間は**15**分間のまま

### ③ファイナル

- 簡単に10m個人、50m三姿勢個人をご紹介
- ゴールドメダルマッチ形式に変わります



# 10m 個人種目

- ファイナルの構成：**ランキングマッチ**（3～8位を決める）→**メダルマッチ**（1,2位を決める）
- ランキングマッチ：**250**秒で**5**発のシリーズ
- **3**シリーズ目、**15**発を終えた時点で**7,8**位が脱落
- **4**シリーズ目、**20**発を終えた時点で**5,6**位が脱落
- **5**シリーズ目、**25**発を終えた時点で**3**位（銅メダル）,**4**位が脱落
- 残った**1,2**位で**16**pt先取のメダルマッチを続ける

# 50m 個人種目

※大体10m個人と同じ

- 同点の決定：**6.15**のカウンタックルール ※TOKYO2020年以前のルール
- ファイナルの形式：**ランキングマッチ**（3～8位を決定）→**メダルマッチ**（1,2位を決定）
- ランキングマッチ：K**200**秒、P**150**秒、S**250**秒の5発シリーズ ※変わらず
- 姿勢転換：K→P**6**分間、P→S**8**分間
- **6**シリーズ目（Sの**2**シリーズ目）で**7,8**位が脱落
- **7**シリーズ目で**5,6**位が脱落
- **8**シリーズ目で**3,4**位が脱落
- 残った**1,2**位で**16**pt先取のメダルマッチを続ける

# 競技会での役割分担

講師：岡田亜美

# 用語の確認

- **EC** : 用具検査 **E**quipment **C**ontrol
  - **ECO**=EC **O**fficer **CECO**=**C**hief EC Officer
- **RTS** : 成績、計時、採点 **R**esults, **T**iming, **S**coring
  - **RTSO**=RTS **O**fficer **CRTSO**=**C**hief RTS Officer
- **RO** : 射場役員 **R**ange **O**fficer
  - **CRO**=**C**hief Range Officer

## 競技役員、 Jury、 TD... 役割の違い、ピンとききますか？

競技役員の上司は？



Juryが色々決める？

TDは何をしてる？

RTSって何の略？

# 「技術」と「運営」

技術部門、運営部門に分かれる

技術部門	<p data-bbox="504 451 1090 568"><b>TD</b></p> <p data-bbox="537 608 1021 782">技術部門の最高責任者 射場・設備の検査・承認 状況に応じてルールを決める</p>	<p data-bbox="1442 451 2028 568"><b> Jury</b></p> <p data-bbox="1454 608 2002 793">状況・ルールをもとに判断・裁定 射場 Jury RTS Jury 用具検査 Jury 上訴 Jury</p>
運営部門	<p data-bbox="504 893 1090 1011"><b>組織委員会</b></p> <p data-bbox="486 1065 1110 1179">運営部門の責任者 スケジュールや会場、役員の手配など</p>	<p data-bbox="1442 893 2028 1011"><b>競技役員</b></p> <p data-bbox="1480 1065 1939 1250">ルールをもとに試合進行 射場役員 RTS役員 用具検査役員 上訴役員</p>

# 「技術」と「運営」

技術部門、運営部門に分かれる

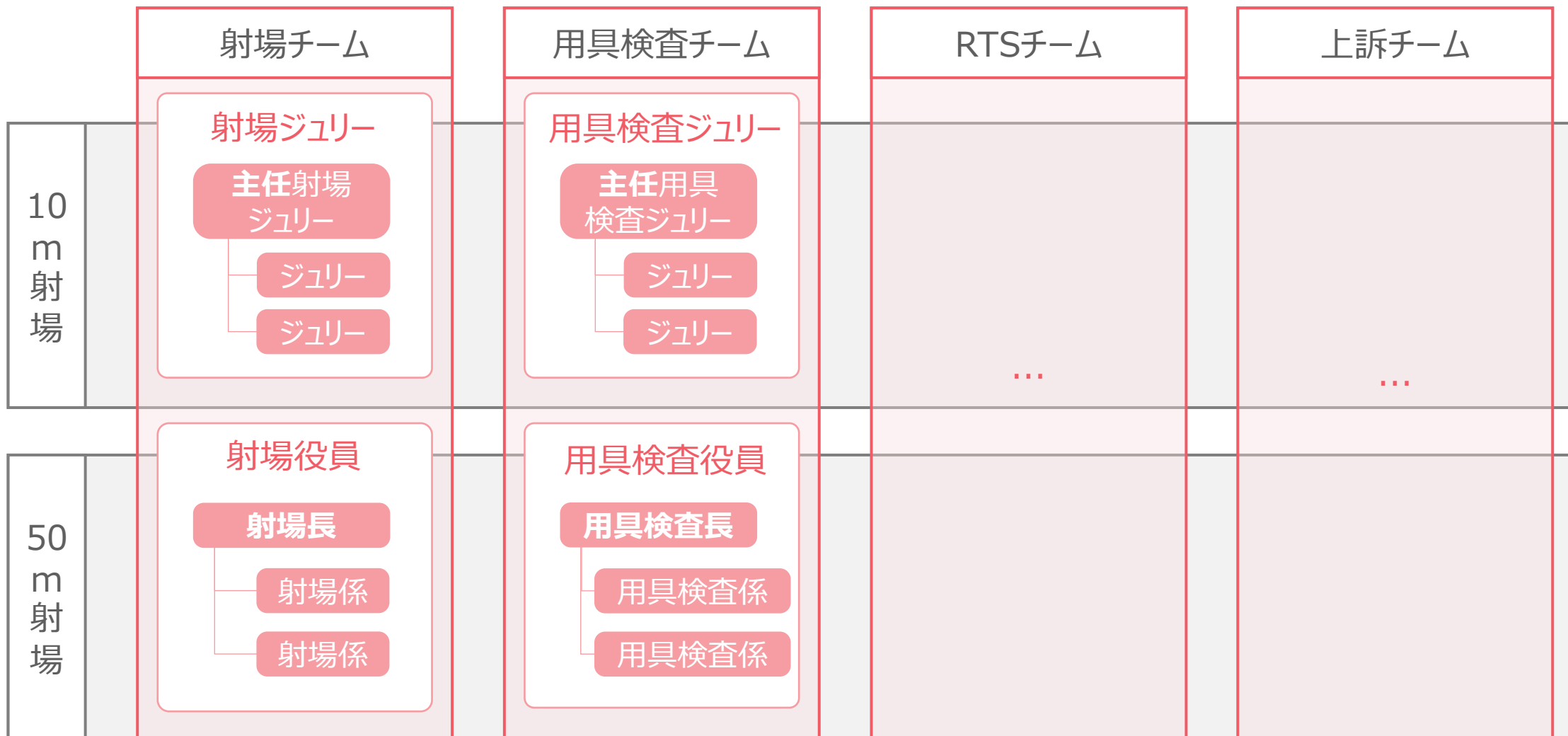


# ジュリーと競技役員：競技会における役割分担

		射場チーム	用具検査チーム	RTSチーム	上訴チーム
10 m 射場					
50 m 射場					



# Jury と競技役員：競技会における役割分担



# こういうケースは誰の管轄？

1. 本射中に空砲があった
2. 本選終了後に速報、確報を掲示する
3. 競技後検査の対象を決める

# こういうケースは誰の管轄？

## 1. 本射中に空砲があった

- ROが発見、いつ誰が何発目に？ IRに起票
- IRで射場 Jury に報告、射場 Jury から RTSO に報告
- RTS Jury の指示のもと EST 係が得点に反映
- **一連の対応履歴を IR に残す**

## 2. 本選終了後に速報、確報を掲示する

- RTS Jury が EST 係に指示し、**終了後すぐに速報印刷し署名**
- 内容をチェックし RTSO が掲示、CN を起票
- 講義締切後 RTS Jury が確報に署名し、確報を掲示

## 3. 競技後検査の対象を決める

- EC Jury が決めて、CRO や射場 Jury に共有
- RO が担当射座の射手の射撃が終了したら検査対象であることを通知 **(終了まで知られてはいけない！)**
- RO か ECO が用具検査室までエスコート **(先導せず、後ろから！)**

成績、時間、採点に関わる内容は RTS !



# 参考：公認競技会の格付規定 付表2-3（4月～） G3の役員配置

組織委員会（競技会運営役員）

役職	必要資格	人数
大会会長	<b>組織委員会</b>	1名
コンペティションマネージャー (競技会運営責任者)	配置が望ましい	1名
チーフレンジオフィサー (射場長)	<b>競技役員</b>	各射撃場 1名
チーフ RTS オフィサー (RTS 長)	公認審判員が望ましい	1名
チーフ EC オフィサー (用具検査長)	公認審判員が望ましい	1名
レンジオフィサー (競技役員)	公認審判員が望ましい	各射撃場 10 射座につき、1名以上配置
RTS オフィサー (RTS 役員)	公認審判員が望ましい	各射撃場 1名以上
EC オフィサー (用具検査役員)	公認審判員が望ましい	1名以上
EST オフィサー (電子標的技術員)	公認審判員が望ましい	各射撃場 1名

TD 及びジュリー（競技会技術役員）

名称	必要資格	人数
テクニカルデレゲート (競技会技術責任者)	<b>TD</b>	1名
ジュリーオブアピール (上訴ジュリー)	<b>ジュリー</b>	1名
ライフルジュリー	チェアパーソンのみ 公認審判	1名以上
ピストルジュリー	チェアパーソンのみ 公認審判	1名以上
RTS ジュリー	チェアパーソンのみ 公認審判	1名以上
EC ジュリー (用具検査ジュリー)	チェアパーソンのみ 公認審判	1名以上

技術部門

注1) 競技会運営役員と競技会技術役員は、相互に兼務できない。

注2) 選手は、競技会運営役員は兼務できる。選手は、競技会技術役員のうち、TD、ジュリーオブアピール・チェアパーソンを除いたジュリーを兼務できる。

注3) 競技会運営役員は、相互に兼務できる。

注4) 競技会技術役員は、TD、ジュリーオブアピール・チェアパーソンを除き、相互に兼務できる。

運営部門



# 審判講習会 ECOの役割

Role of Equipment Control Officer





# リンク集

## ISSF

- [GTR](#)
- [ライフル用具検査ガイド](#)
- [ピストル用具検査ガイド](#)
- [用具検査用、計測機器](#)
- [ライフル付則A](#)
- [ライフル付則B](#)
- [ライフル付則C](#)
- [ピストル付則A](#)
- [ピストル付則B](#)

## JRSF

- [GTR](#)
- [ライフル用具検査ガイド](#)
- [ピストル用具検査ガイド](#)





---

# GTR

## GENERAL TECHNICAL RULES





## 6.5 ゲージと測定器具

- a) 各**組織委員会**はISSF選手権大会の開催期間中、用具検査に使用するゲージや測定器具など**道具一式を用意**しなければならない。
- b) 用具検査を実施する上で必要な用具検査器具の詳しいリストとそれらの器具の仕様と性能の表はISSF本部に用意してある。
- c) ISSFテクニカルデレゲートまたは主任用具検査ジュリーは競技会に先立ってすべてのゲージおよび測定器具を検査し承認しなければならない。
- d) 用具検査器具を検査するための調整器具はISSF本部に用意してある。毎日の検査前及び競技後検査において**失格となると思われる事態が生じたときにはこの用具検査器具を調整**に用いなければならない（調整報告様式はISSF本部に用意してある）。
- e) 選手の衣服等の厚さ、固さ、柔軟性の検査に用いる測定器具はこのルール（下記 6.5.1）に従って製造されていなければならない、なおかつISSF技術委員会によって承認されていなければならない。





## 6.7 競技用服装および用具

- 6.7.1 ISSFはISSF選手権大会において選手が使用できる競技用の服装および用具に関して明確なる基準を制定した。また、これらの基準は他の選手よりも不正に有利となる選手のない公正で平等な競技会の原則を守るために用具検査において調べるためのものである。
- 6.7.2 選手は、ISSF選手権大会で自分の使用する全ての用具と服装がISSFルールを遵守していることを保証する責任を負う。
- 6.7.3 全ての用具は用具検査ジュリーと組織委員会により設置された用具検査係において、各競技ジュリーによるものと同等に検査される。



## 6.7.6 用具検査

- 6.7.6.1 組織委員会は用具検査ジュリーの監督のもと用具検査を行う用具検査係を設置しなければならない。用具検査サービスは、選手が競技前の用具検査をできるように、全ての選手に対して利用できるようになっていなければならない。ISSFルールの遵守を保証するために、用具検査ジュリーと用具検査係はランダム競技後検査を行わなければならない（6.7.9）。



## 6.7.6.2 用具検査手順

- a) 組織委員会はチーム役員および選手に、競技開始前または競技中に、用具検査をいつ、どこで行うことができるかを通知しておかなければならない。
- b) 用具検査室は、公式練習日からライフル、ピストル、ランニングターゲットの競技が終了する日まで、選手の用具の自主検査のために開けられていなければならない。
- c) 毎日の検査前及び競技後検査において失格となると思われる事態が生じたときに行われる検査器具の調整には、ISSF検査器具調整器具を用いなければならない。
- d) 選手には自分の使用する用具が競技後検査に合格するという確証がもてなければ、その用具を検査するために用具検査室に持っていくことを推奨する。
- e) 用具検査係は全ての射撃ジャケットと射撃ズボンを、選手に登録されたシリアルナンバーのついたタグを調べ、確認しなければならない。タグはタグを壊すことなく取り外すことができないように設計されてなければならない。2013年以前に“One Time Only 検査”で発行されたタグはこの要求を満たしている。タグのないジャケットとズボンはISSFルールを遵守しているか検査され、選手に登録されたものとしてタグが取り付けられなければならない。用具検査ジュリー及びライフルジュリーは、ルール7.5.1.2に従い、ランダム検査でジャケットやズボンのタグを利用する。
- f) 用具検査係は用具検査で検査したそれぞれの銃、射撃ジャケットおよび射撃ズボンの選手の名前、メーカー、銃番号および口径を用具検査票（コントロールカード）に記録し、保存しなければならない。
- g) エアまたはCO<sub>2</sub>シリンダーが保証期間（最大10年）内であり安全であると保証することは選手の責任である。このことは用具検査がチェックすることができ、推奨される措置を忠告することができる。



## 6.8 競技ジュリーの任務と職務

- ジュリーは組織委員会の任命した競技役員を助言し、援助し、監督する責任を負う。
- a) 競技（ライフル、ピストル、ショットガン、ランニングターゲット）ジュリーは各種目の競技運営を監督する。
- b) R T S（成績、計時および採点）ジュリーは採点および成績処理を監督する。
- c) 用具検査ジュリーは選手の服装および用具の検査を監督する。



# 1. ライフル用具検査の組織（人員配置）

用具検査用紙  
受け付け

ライフルの  
チェック

靴、柔軟測定器  
その他も

厚み測定器

ジャケット、ズボ  
ンの硬さ測定器

ジャケット、ズボ  
ンの硬さ測定器

前合わせ、  
肘の縫い目

JURIES





# 1.ライフル用具検査の組織（人員配置）

用具検査用紙  
受け付け



ライフルの  
チェック



靴、柔軟測定器  
その他も



厚み測定器



ジャケット、ズボ  
ンの硬さ測定器



ジャケット、ズボ  
ンの硬さ測定器



前合わせ、  
肘の縫い目



JURIES





# 1. ライフル用具検査の組織

- 1.1 ECセクションは最低でも5人、可能であれば7人で構成する
- 1.10 ECOはECJから支援、監督されなければならない
- 1.11 ISSF校正器を用いた校正する
- 1.12 失格が検討される際に再校正する。



校正 = キャリブレーション



## 2. ライフル検査用具①

- 2.1 重量計（最大10kg、1g単位で測れるもの）
- 2.2 1500gトリガーウェイト(300mスタンダードライフル用)
- 2.3 ライフルのテンプレートボード
- 2.4 定規、巻き尺
- 2.5 硬さ測定器
- 2.6 厚さ測定器
- 2.7 オーバーラップゲージ
- 2.8 靴寸法測定ゲージ
- 2.9 靴底柔軟性検査機





## 2. ライフル検査用具②

- 2.10 ニーリングロール測定ゲージ
- 2.11 スチール定規300mm
- 2.12 測定項目用の各種テンプレート
- 2.13 コンピュータ、プリンタ、消えないしるしをつけるペンを含む機器又はその手段
- 2.14 用具検査用紙、
- 2.15 複数色のマスキングテープ
- 2.16 ISSFのGTR、特別ルールの英語及び現地語の写し(あれば)  
注意：ISSF webサイトに掲載の正誤表、規則解釈等すぐに閲覧できること
- 2.17 エントリーリスト
- 2.18 用具検査シール (シリアルナンバー入りが望ましい)
- 2.19 再検査通知カード (衣服、トリガー、靴、テーピング)





# 3. ライフル検査手順①

- 3.1.1 選手などに用具検査の会場と実施時間を知らせる
- 3.1.2 選手は、あらゆる用具を持参することが推奨される
- 3.4 ジャケットは表から、ズボンは裏から計る。ウエストバンド部分は縫い目の端や折れ曲がりのを考慮し、測定結果が正しくなるように注意する必要がある
- 3.5 測定面に、しわ等がないことを確認する
- 3.6 測定器のシリンダーを慎重に衣服上におろし静止させる。測定時間の上限は1分
- 3.7 3.0mm以上凹んでいれば合格。これより低い数字は不合格



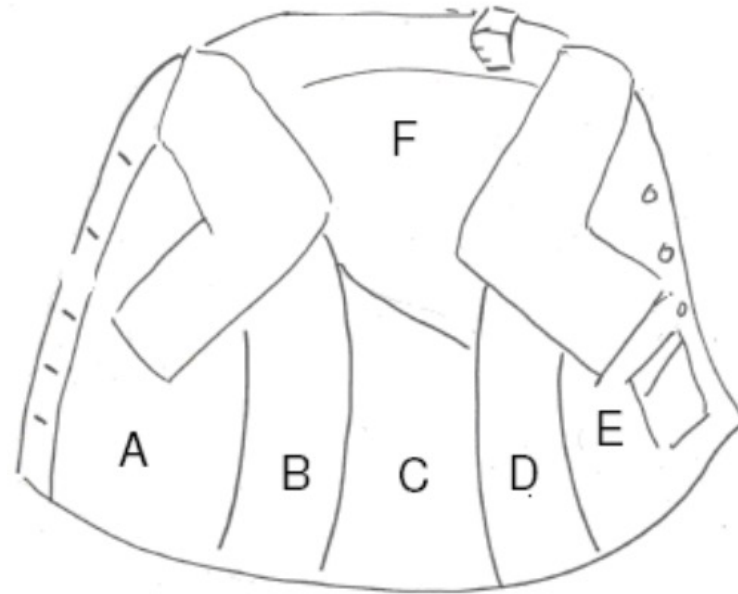
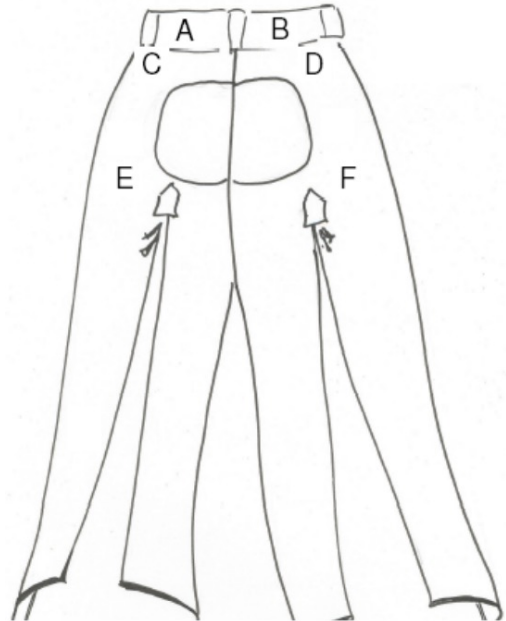
# 3. ライフル検査手順②

- 3.8 競技会後検査はその選手が終了した直後に行われる
- 3.9 1パネルが2.9以下の場合、検査器具を再校正し、同一パネルを再検査する。再度不合格となり、他の(4または5)パネルがすべて合格した場合、選手は失格にはならない。
- 3.10 この場合、競技者に書面による警告を与えなければならない。その選手は、その日、その競技に限り、その衣服の使用を継続することができる
- 3.11 選手は自身の責任で十分な柔軟性のある衣服で競技する必要がある。3.1や3.0の測定結果の衣服で試合に出ることは選手にとって大きなリスクである



# 3. ライフル検査手順③

- 3.12 ジャケット、ズボンはすべての箇所が測定可能でなければならない
- 3.13 2か所以上、もしくは示されているすべての箇所  
が、競技会に臨む前に合格していなければならない。



# 3. ライフル検査手順④



- 3.15 オーバーラップ測定器は競技会前検査は6kg、競技会後は8kgで行うことを推奨する。
- 3.17 ボタンの位置に印をつけるためのサインペン



# 1.ピistol用具検査の組織



用具検査用紙  
受け付け

ピistolのチェック

衣服、靴

ピistolチェック

Or

衣服、靴

JURIES



# 1.ピストル用具検査の組織



用具検査用紙  
受け付け



ピストルのチェック



衣服、靴



ピストルチェック  
Or  
衣服、靴



JURIES





## 2. ピストル検査用具①

- 2.1 エアピストル用測定ボックス
- 2.2 センターファイア及びリムファイヤーピストル用測定ボックス
- 2.3 重量計（最大1500g、1g単位で測定できるもの）
- 2.4 トリガーウエイト（500g、1000g）
- 2.5 靴底柔軟性測定器
- 2.6 25m男子RFP、弾速測定器
- 2.7 ヒールレスト用90度テンプレート





## 2. ピistol検査用具①

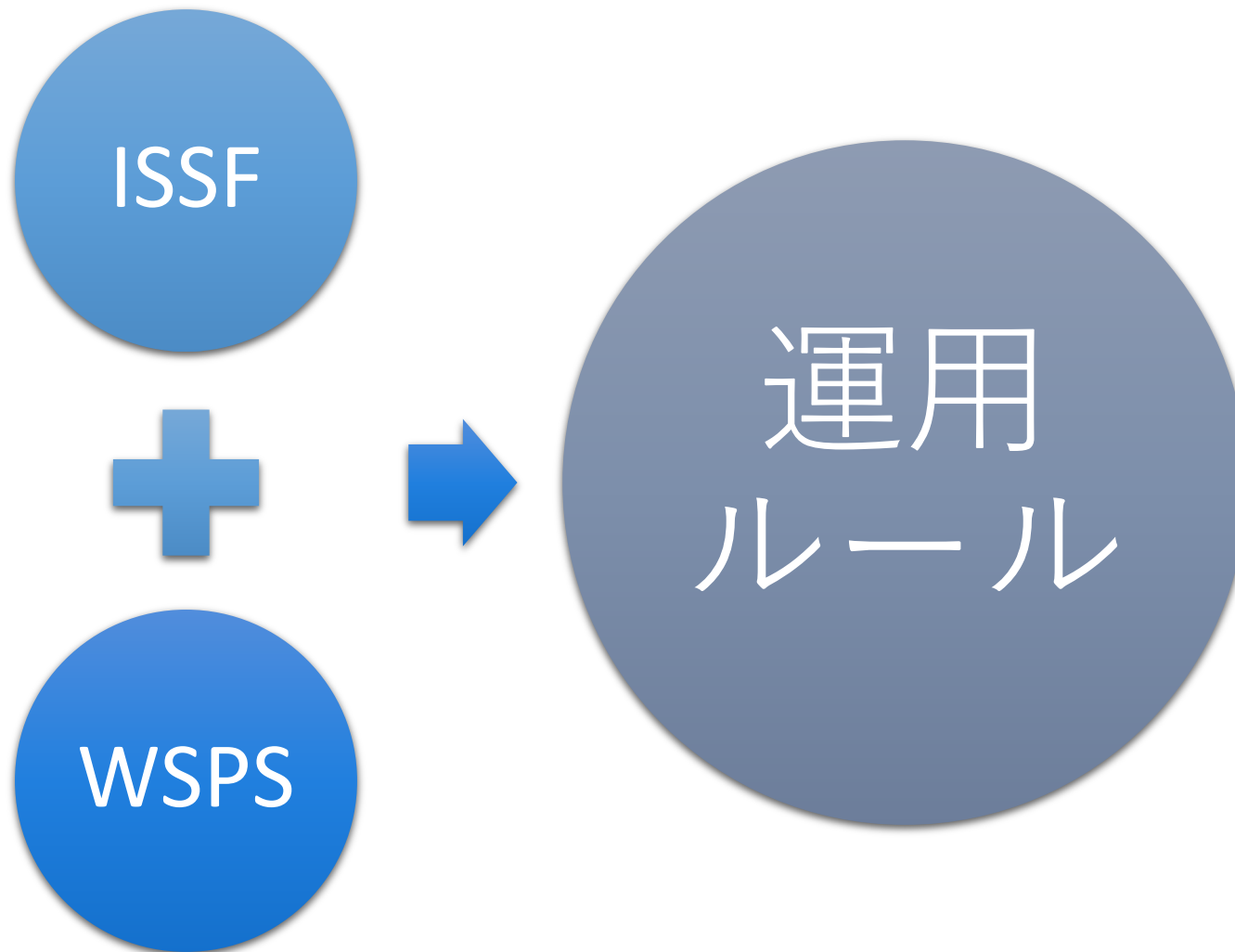
- 2.8 ISSFのGTR、特別ルールの英語及び現地語の写し(あれば)  
注意：ISSFwebサイトに掲載されている正誤表、規則解釈等にすぐに関覧できること
- 2.9 エントリーリスト
- 2.10 用具検査用紙
- 2.11 サインペン
- 2.12 ノギス、スチール定規300mm
- 2.13 用具検査シール (シリアルナンバー入りが望ましい)
- 2.14 再検査通知カード (トリガー、靴、テーピング)
- 2.15 失格が検討される際にキャリブレーション



# 4. ピストル競技会後検査

- 4.1 競技会後検査は予選及び本選のファイナルのまえまでの時間に実施されなければならない。ECJはこれの全責任を負う。
- 4.2 靴、テーピング、トリガー、ピストルとグリップ寸法、弾速チェック、弾頭の重量
- 4.3 トリガー、ピストルとグリップの寸法の検査は本選会場に配置。靴は用具検査場、テーピングは本選会場近くの閉鎖された更衣室で行う。

# パラ種目について





# パラ種目について-クラス分け-

ピストル

SH1

ライフル

SH1

SH2

# パラ種目について-クラス分け-



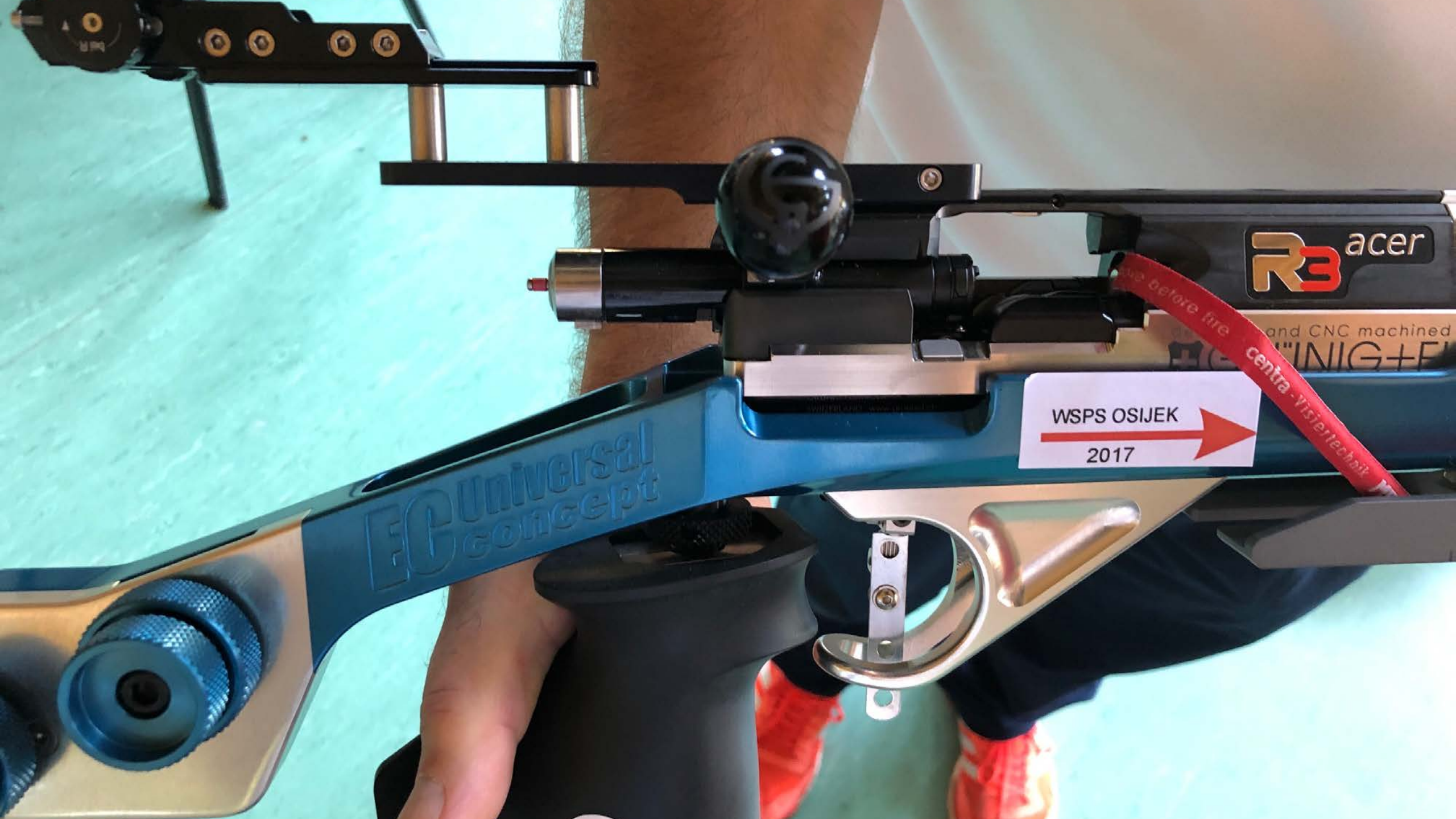
	Backrest support	Spring for rifle support	Loading assistant	Loading device	Trigger adaptation
SH1 (Pistol)	A/B/C			yes/no	yes/no
SH1 (Rifle)	A/B/C				yes/no
SH2	A/B/C	a/b	yes/no		yes/no

World  
**Shooting**  
Para Sport

トリガー  
アダプテーション



出典:WSPS Appendix



EC Universal  
concept

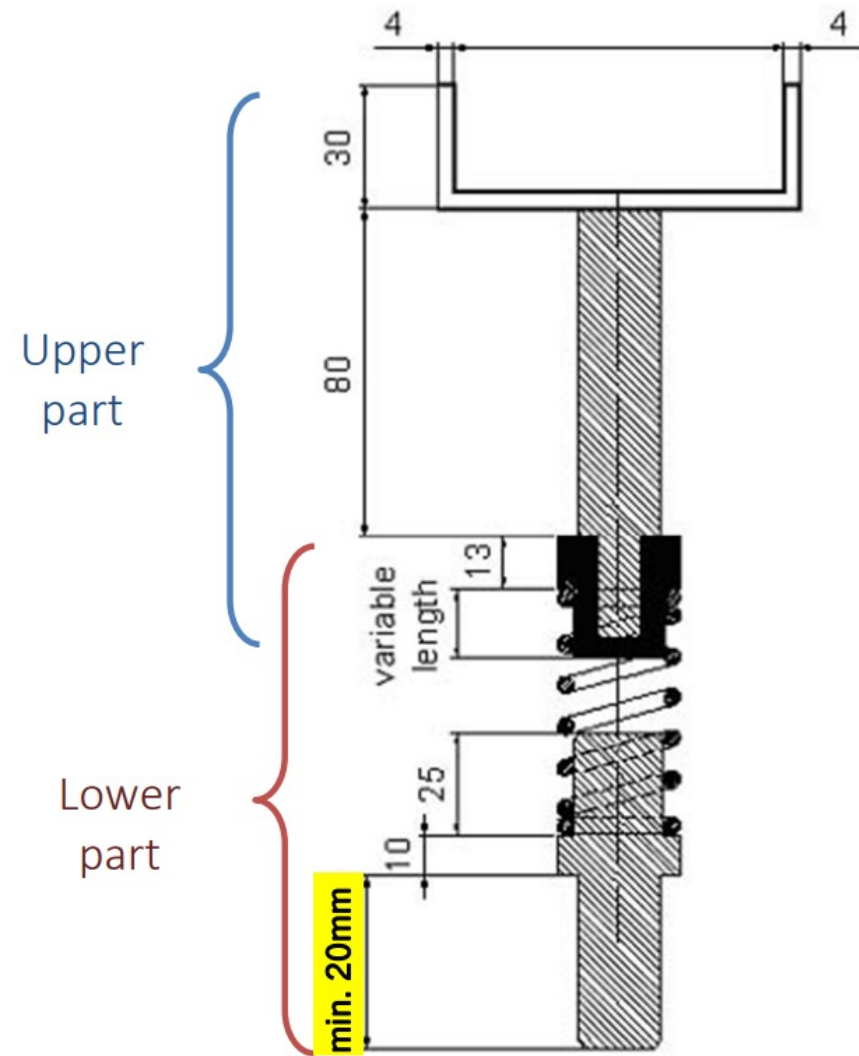
R3 acer

and CNC machined

WSPS OSIJEK  
2017

before fire  
centra-Visiertechnik

# SH2用スプリング





# ライフル種目

Event	Discipline	Gender	Class	Shots	Time Electronic Targets	Time Target carriers & pit-operated Competitions
R1	10m Air rifle standing	Men	SH1	60	1:15	1:30
R2	10m Air rifle standing	Women	SH1	60	1:15	1:30
R3	10m Air rifle prone	Mixed	SH1	60	0:50	1:00
R4	10m Air rifle standing	Mixed	SH2	60	1:15	1:30
R5	10m Air rifle prone	Mixed	SH2	60	1:00	1:10
R6	50m Rifle prone	Mixed	SH1	60	0:50	1:00
R7	50m Rifle 3 positions	Men	SH1	40 kneeling 40 prone 40 standing	2:45	3:15
R8	50m Rifle 3 positions	Women	SH1	40 kneeling 40 prone 40 standing	2:45	3:15
R9	50m Rifle prone	Mixed	SH2	60	1:00	1:10

# ピストル種目



Event	Discipline	Gender	Class	Shots	Time Electronic Targets	Time Target carriers & pit-operated Competitions
P1	10m Air Pistol	Men	SH1	60	1:15	1:30
P2	10m Air Pistol	Women	SH1	60	1:15	1:30
P3	25m Pistol	Mixed	SH1	60	-	-
P4	50m Pistol	Mixed	SH1	60	1:30	1:45





ローダー  
(loading  
assistant)



ローディング  
デバイス

25mピストル混合  
(P3)

Rank	Name	Country	Score
1	...	...	198.0
2	...	...	196.3
3	...	...	195.5
4	...	...	194.3
5	...	...	193.5
6	...	...	192.7



321

10mピストル男子  
SH1 (P1)





50mライフル3姿勢男子  
SH1  
K姿勢 (R7)



Paralympic 2024 World Shooting Para Rifle World Cup Overall

Rank	Name	Country	10m	50m	300m	Total
1	...	...	...	...	...	...
2	...	...	...	...	...	...
3	...	...	...	...	...	...
4	...	...	...	...	...	...
5	...	...	...	...	...	...
6	...	...	...	...	...	...
7	...	...	...	...	...	...
8	...	...	...	...	...	...
9	...	...	...	...	...	...
10	...	...	...	...	...	...

50mライフル3姿勢女子  
SH1  
P姿勢 (R8)



50mライフル3姿勢女子  
SH1  
S姿勢 (R8)





50m RIFLE PRONE MIXED SH2

Rank	Country	Name	Score
1	GBR	COCKFIELD, Ryan	10.0
2	ITA	FRATELLO, Cristian	10.0
3	USA	DE LA HERRA, T.	10.0
4	CHN	SHAN, Yuchen	10.0
5	USA	HALL, Anthony Paul	10.0
6	USA	HOVINGHA, Mitchell	10.0
7	USA	JEFFERY, Tim	10.0
8	USA	MONTECCHIO, Thomas	10.0
9	USA	DE LA HERRA, T.	10.0
10	USA	DAHL, ...	10.0

10.4 Rk1, 10.3 Rk1, 10.4 Rk1, 10.0, 10.2 Rk1

50mライフル伏射混合  
SH2 (R9)

# リンク集

- <https://jpssf.com/index/show-pdf/url/aHR0cHM6Ly9kMmEwdjF4N3F2eGw2Yy5jbG91ZGZyb250Lm5ldC9maWxlcy9zcG9ocC9tdWx0aS1tYXN0ZXJwYWdlLzYzMmNINDM1MTgyZjYucGRm>
- [https://www.paralympic.org/sites/default/files/document/190207132510726\\_World+Shooting+Para+Sport+Classification+Rules+and+Regulations.pdf](https://www.paralympic.org/sites/default/files/document/190207132510726_World+Shooting+Para+Sport+Classification+Rules+and+Regulations.pdf)
- [https://www.paralympic.org/sites/default/files/2022-06/WSPS%20Rulebook%202022-2024\\_May%202022\\_Final.pdf](https://www.paralympic.org/sites/default/files/2022-06/WSPS%20Rulebook%202022-2024_May%202022_Final.pdf)
- [https://www.paralympic.org/sites/default/files/2022-05/WSPS%20Rulebook\\_Appendices%202022-2024\\_May%202022\\_Final.pdf](https://www.paralympic.org/sites/default/files/2022-05/WSPS%20Rulebook_Appendices%202022-2024_May%202022_Final.pdf)



# クイズ大会！





7.4.4.2 M  
5.5kgまで



O1 = 850 mm Air Rifle  
 762 mm Standard Rifle  
 700mm Weights 50m Rifle

50m Rifle

Weights on the fore-end of the rifle shall be lower than 200mm below the center line and not further forward than 20mm from the back/side end of the system. Max. 700mm

Item	Weight	Position
A	1500 grams	Free
B	1500 grams	Free
C	1500 grams	Free
D	1500 grams	Free
E	1500 grams	Free
F	1500 grams	Free
G	1500 grams	Free
H	1500 grams	Free
I	1500 grams	Free
J	1500 grams	Free
K	1500 grams	Free
L	1500 grams	Free
M	1500 grams	Free
N	1500 grams	Free
O	1500 grams	Free
P	1500 grams	Free
Q	1500 grams	Free
R	1500 grams	Free
S	1500 grams	Free
T	1500 grams	Free
U	1500 grams	Free
V	1500 grams	Free
W	1500 grams	Free
X	1500 grams	Free
Y	1500 grams	Free
Z	1500 grams	Free



50m Rifle

Weights on the fore end of the rifle and lower than 30cm below the center line and no further forward than 1/3 the length of the system.

Center line

Q1 = 850 mm Air Rifle

Q = 762 mm Standard Rifle

700mm Weights 50m Rifle

Item	Weight
Fore end	1.5 kg
Lower part	1.5 kg
Upper part	1.5 kg
Barrel	1.5 kg
Stock	1.5 kg
Trigger	1.5 kg
Receiver	1.5 kg
Magazine	1.5 kg
Scope	1.5 kg
Optics	1.5 kg
Mounting	1.5 kg
Accessories	1.5 kg
Total	15.0 kg

and of system

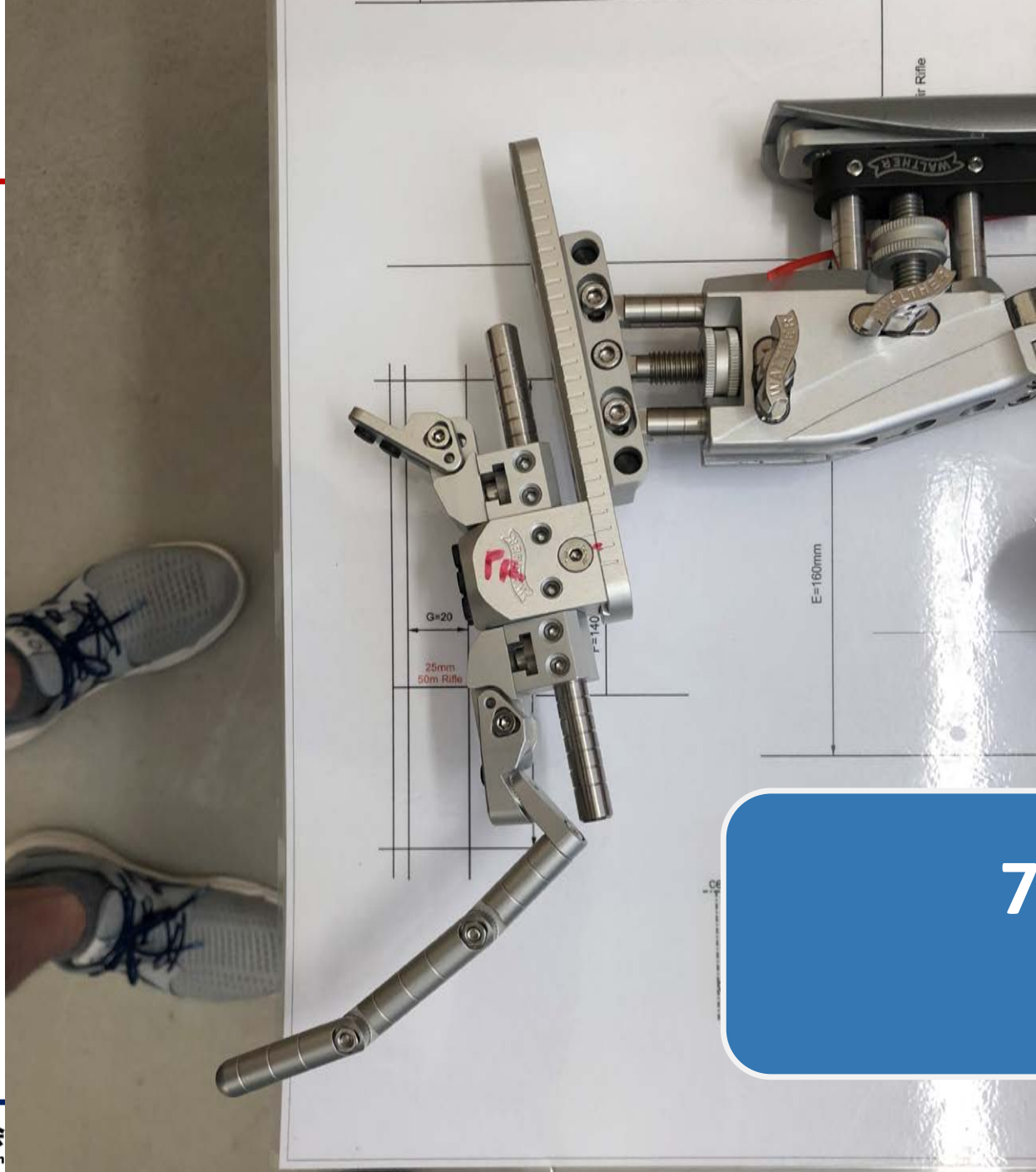
10 202  
0 TC  
10 202  
10 202

ISSF



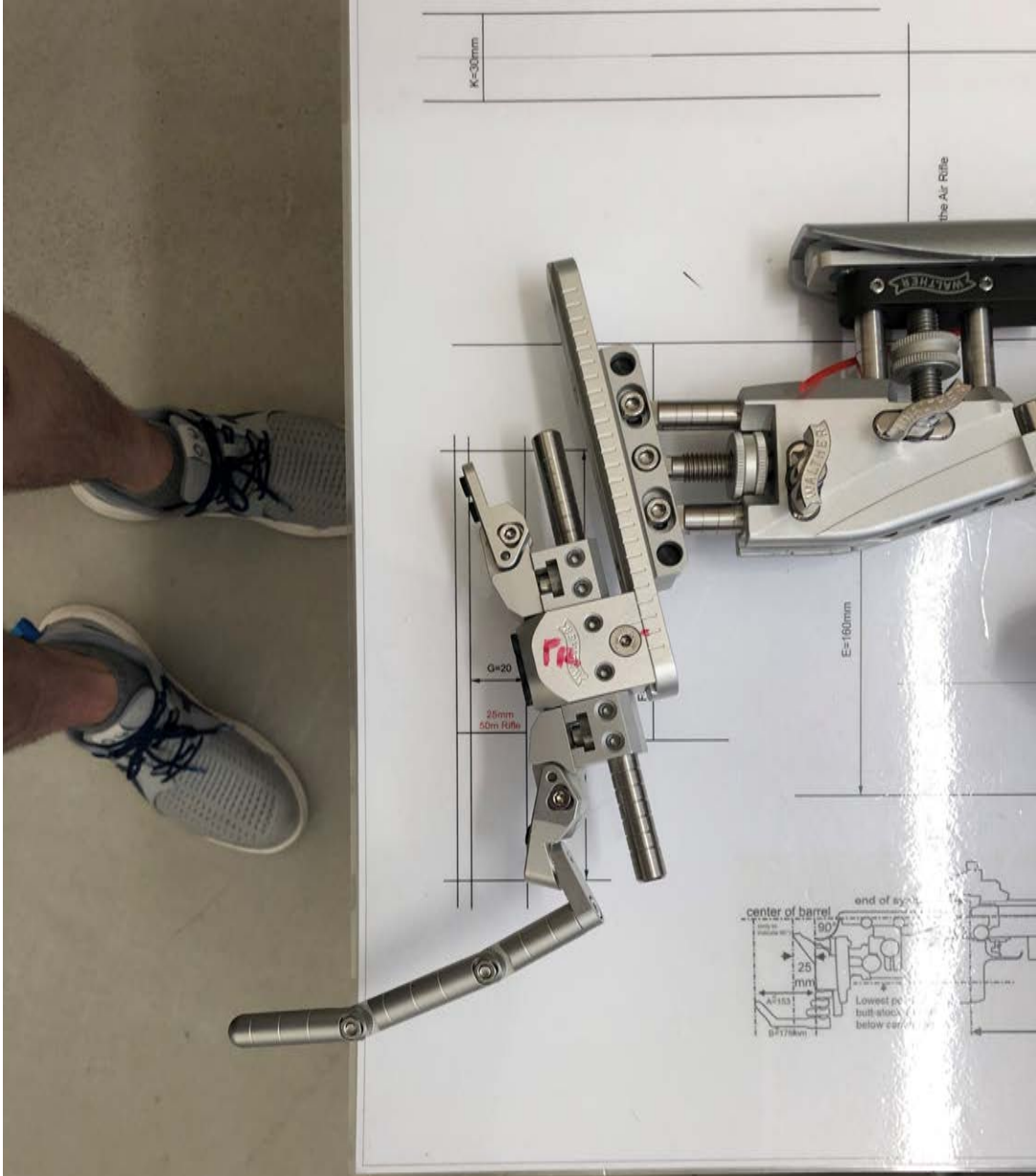
Yellow box

Red wire

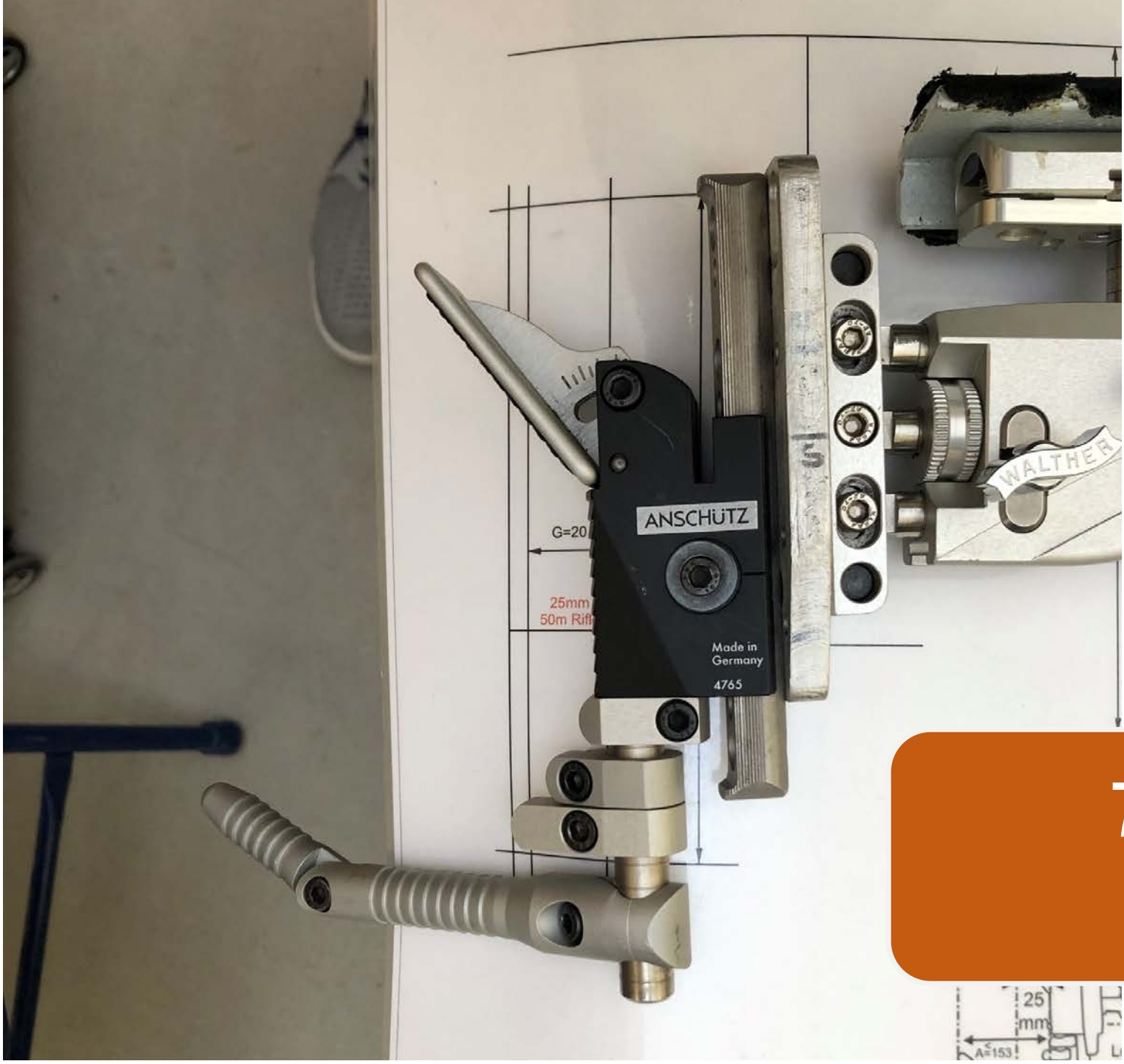


7.4.5.1 d)  
25mm





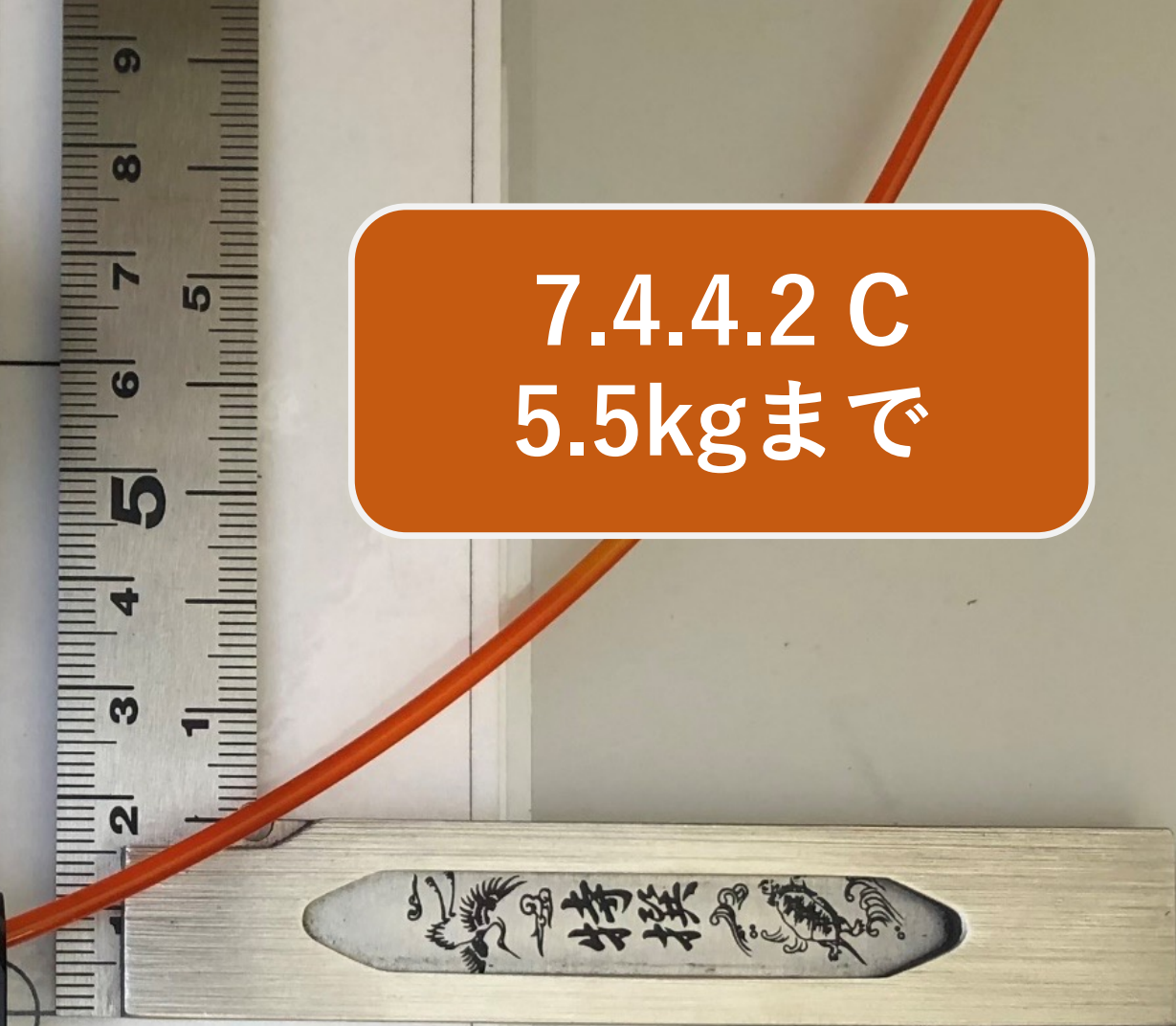




7.4.5.1 d)  
25mm

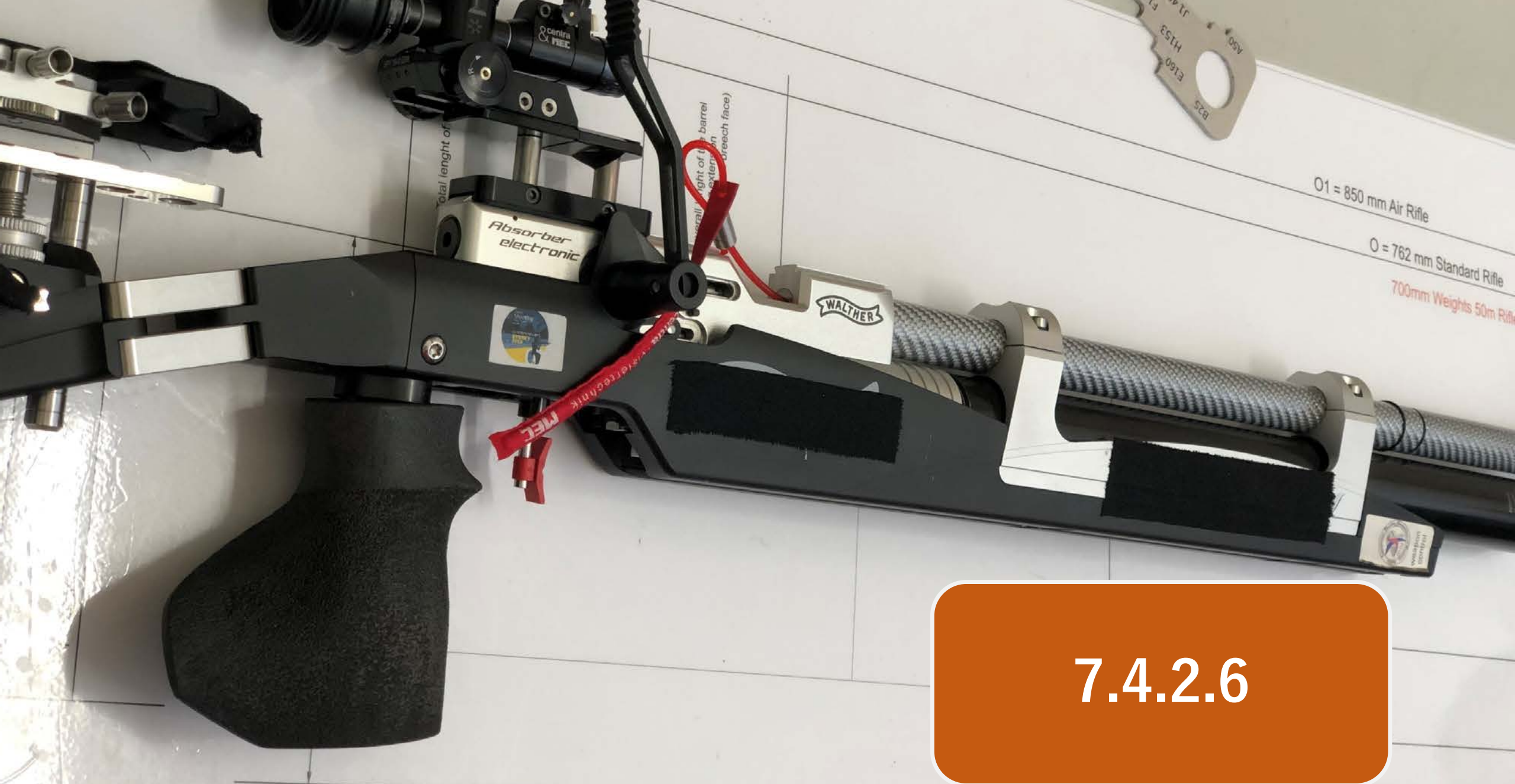


7.4.4.2 C  
5.5kgまで





7.4.2.6



# 7.4.2.6

E	Lowest point of pistol grip	160 mm	180 mm
F	Lowest point of butt-plate between the pistol grip and the butt plate (does not apply to wooden stocked rifles)	140 mm	140 mm
G	Depth of muzzle of butt-plate	mm	mm



**LG**  
**400-E**

Made in Germany

cal. 4.5



KBA9357

F

T

TOKYO 2020



7.4.2.6



---

# おしまい





# GTRまとめ

---

- 組織委員会は検査道具を用意
- 事後検査は必須
- 検査会場、時間の事前告知
- 失格が起きそうな時のキャリブレーション
- ECJはECOの監督者で検査員ではない





# ライフル用具検査まとめ

---

- ECOは理想的には7人以上（最低5人）
- 毎日キャリブレーションを行う
- 硬さの事後検査時、1箇所だけの違反はDSQにならない場合がある。







# ピストル用具検査まとめ

---

- ECOは理想的には4人以上（最低2人）
- 競技会後検査は内容によって実施場所が異なる





---

ここまではISSFのガイドの内容でした  
つまりG1、G2（G3+）に適応されるものです。

ではG3、G4ではどうしましょう。





ではG3、G4は  
どうしましょう？





## • JRSSF公認競技会の格付け規定には

(グレードと競技運営体制について)

第6条 グレード1、グレード2及び格上グレード3の競技会においては、テクニカル

2.

免除して良いとは  
書いてない！

3.

ととするが、テクニカルデレゲート（競技委員長）に代わり公認審判員を配置し、その指示の元に服装検査等に簡素化を図った競技会運営をおこなうことができるものとする。





## 6.7 競技用服装および用具

- 6.7.1 ISSFはISSF選手権大会において選手が使用できる競技用の服装および用具に関して明確なる基準を制定した。また、これらの基準は**他の選手よりも不正に有利となる選手のいない公正で平等な競技会の原則を守るため**に用具検査において調べるためのものである。
- 6.7.2 選手は、ISSF選手権大会で自分の使用する全ての用具と服装がISSFルールを遵守していることを保証する責任を負う。
- 6.7.3 全ての用具は用具検査ジュリーと組織委員会により設置された用具検査係において、各競技ジュリーによるものと同等に検査される。



最低1名のECOを配置し  
有利になりやすい要素を  
複数検査しましょう





# 検査項目具体例

## ライフルの場合

- ジャケットズボンの硬さ
- ライフルの外形
  - バックレの深さ
  - ウェイトの位置
  - ハイサイトの高さ

など

## ピストルの場合

- トリガーウェイト
- グリップの外形
- 基準箱

など





# 試合におけるRTS実務の解説

G3, G4競技会のために

愛知県ライフル射撃協会

鈴木 慎平







# 「RTS」とは何か

- **R**esults:成績
  - **T**iming:計時
  - **S**coring:採点
- 
- 制限時間の中で、いかに点数を取るかの競技
  - 正確な時間と、正確な採点、正確な成績表の管理を担う**極めて重要な役割**





# 今日のテキスト

---

- ISSF RTSマニュアル(和訳版)
- ライフルスポーツ2023年1月号 p.14~15
- 【参考資料】  
EST Officer for SIUS (SAWA Shooting WEB)  
<https://sites.google.com/view/sawashootingweb/%E9%9B%BB%E5%AD%90%E6%A8%99%E7%9A%84sius?authuser=0>





## 1.1 RTS室の備品

- TD、競技委員長、RTS Juryで協議の上、取捨選択。
- ゲージ、自動採点機など、明らかに必要なものは削減しない。
- 紙標的の場合
  - ゲージ・採点機、標的を保管しておく棚、プリンタ、PC
- 電子標的の場合
  - プリンタ出力紙を保管しておく箱、プリンタ、PC



## 1.1 RTS室の備品

- どのようなグレードの試合であっても…
- **各種書類様式は備え付けておく**
  - 射場事故報告書(IR)、RTS室スコア通知用紙(CN)
  - 故障時採点計算票(RFPM, STDP) …25mの場合
  - 抗議用紙(P)、上訴用紙(AP)など
- 書類いじりをするために備え付けるものではありません。
- トラブル時に何分の延長があったのか、何点減点したか記録する、重要な証拠です。



## 1.1 RTS室の備品

- どのようなグレードの試合であっても…
- **成績表や各種書類様式はしっかりファイリングする**
  - 100円均一や近所の文房具屋さんで売っているクリアポケットファイルで十分です。
  - 射群ごとにきちんとファイリングしましょう。
  - 成績表や書類が散逸し、どれが正しい成績か分からなくなったら最悪です。





# 1.1 RTS室の備品

- RTSが扱っているものは、
  - 選手の最大の成果物である **「得点」**
  - 選手が今まで掛けてきた練習などの、またその試合自体の **「時間」**
- **最優先で、大切にしましょう。**





## 1.2 RTS系の職務

- RTS長(CRTSO)、RTS係 (RTSO)
  - 成績処理に関するすべての分野を担当する。
    - 種目別エントリーリスト、スタートリスト、スタートリストの修正
    - 前のステージの成績の正確な表示
    - **RTSプリントアウトの回収**
    - **射場事故報告書の回収と管理**
    - 速報の掲示と抗議の受付
    - ランキングリストの確認
    - 予選結果の掲示とファイナルスタートリストの発表
    - **各種目の最終結果とメダルリストの迅速な公開**
    - 選手権後出来る限り早くリザルトブックの発行



## 1.2 RTS系の職務

- RTSジュリー
  - 採点と成績処理を監督し、採点に関する疑問または抗議の解決
  - 各競技の終了時には、RTSジュリーはすべての故障による再計算(25m)と減点(10m, 25m, 50m)が正しく成績に反映されているかを確認するために成績表を点検しなければならない。







## 実際のG3、G4の競技会場では…

- そもそも、人が確保できない
- (あくまでも個人的な見解ではありますが)ライフル・ピストルジュリーや射場役員(RO)と兼務でも構いません。  
**正確に**成績を処理することを考えましょう。

- ただし、ライフルジュリーとRTSOの兼務やROとRTSジュリーの兼務と言った組み合わせは絶対NG





## 実際のG3、G4の競技会場では…

- 電子標的を使用している加盟団体は、電子標的に付帯する集計ソフトを積極的に使用しましょう。
  - プリンタ出力紙の内容をExcelに転記することは非効率。
  - 転記ミスにも起こりうる。
  - 集計ソフトで成績表を作成し、RTS係、RTS Juryが協力してダブルチェックを行いましょう。
- 例えば、SIUS Rankでは各種目の選手リストを全部コピーすると、Excelに貼り付けられ、ニチラネット報告の手間も軽減できます。



## 実際のG3、G4の競技会場では…

- 電子標的を使用している加盟団体は、電子標的に付帯する集計ソフトを積極的に使用しましょう。

- **【参考資料】**

EST Officer for SIUS (SAWA Shooting WEB)

<https://sites.google.com/view/sawashootingweb/%E9%9B%BB%E5%AD%A8%E6%A8%99%E7%9A%84sius?authuser=0>





# 業務の流れ - 試合前～射群前 -



【出典】ライフルスポーツ2023年1月号 p.14～15 をもとに作成

\*長、主任の仕事



# 業務の流れ – 試合前～射群前 –

- RTSマニュアル p.6以降参照
- 試合前
  - 【ジュリー】 スタートリストとエントリー一覧を突合し、参加申込した選手が漏れなくスタートリストに載っているか確認
- 射群前
  - 【ジュリー、RTSO】  
標的の白い部分に弾痕がないこと。  
標的枠上の弾痕が明確に治痕されていること。





# 業務の流れ - 本選 -

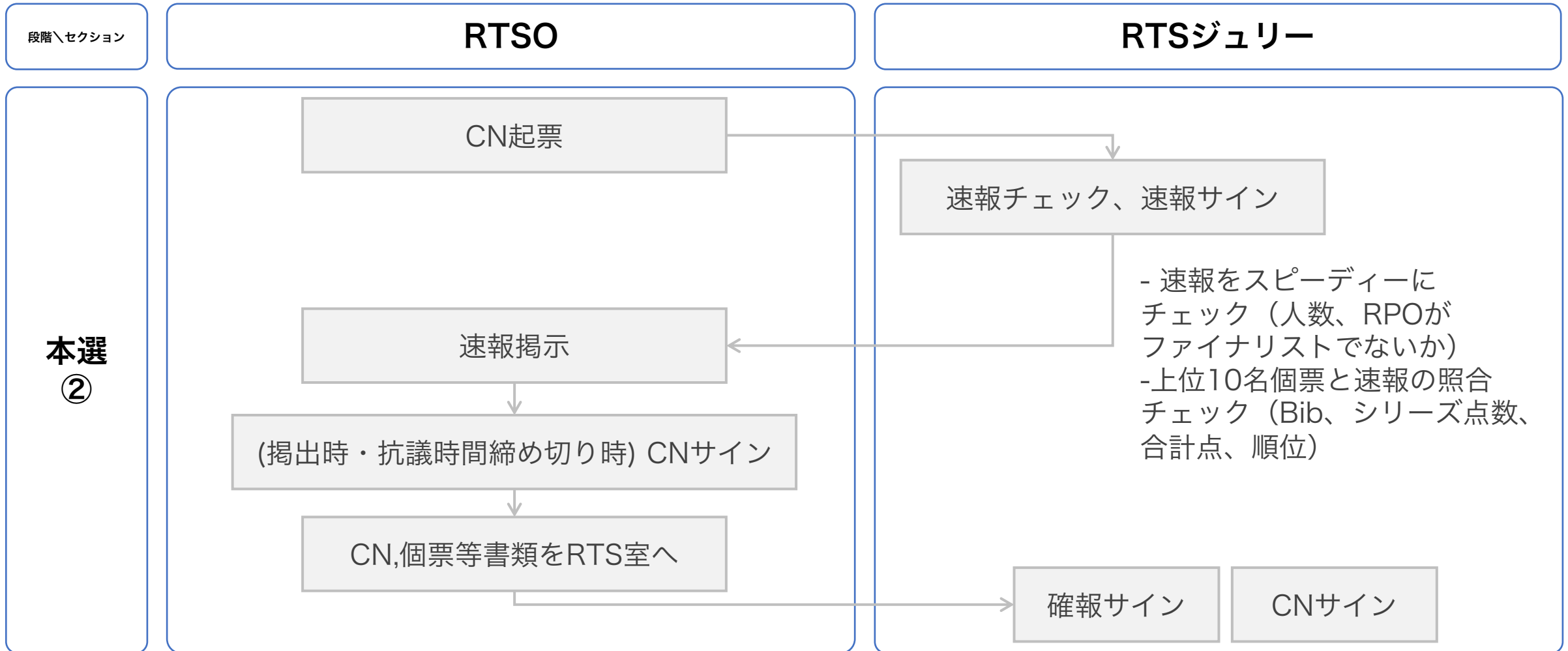
段階\セクション	RTSO	RTSジュリー
本選 ①	インシデント対応 - 射座移動や誤射、ペナルティなど Record, Scoring, Timingに関するもの	壁・標的面・モニターチェック - 治痕、Bib・氏名・所属・種目チェック  レコード申請 - アジア記録が出ていればAnnex R起票 - レコード出た旨をRTSチームとTDですぐ共有 - 個票+確報コピーをTDに提出

【出典】ライフルスポーツ2023年1月号 p.14~15 をもとに作成

\*長、主任の仕事



# 業務の流れ - 本選 -



【出典】 ライフルスポーツ2023年1月号 p.14~15 をもとに作成

\*長、主任の仕事



# 業務の流れ - 本選 -

- 射群中～成績確定
  - 本選と射群の成績を検証して【ジュリー】  
射場スコアボードに公開する【RTSO】
  - インシデント対応（手動による成績の修正を監督する。）  
【ジュリー】







# 業務の流れ - 本選 -

## • 射群中～成績確定

- 射場スコアボードへの「速報」1枚に署名する。【ジュリー】
- 各種目、各射群、各ステージが終了後、射場スコアボードに速報を掲示する。【RTSO】
- 抗議時間中に【ジュリー】
  - RTSプリントアウトで上位10名の個別の成績を確認する。
  - 射場事故報告書を確認して、ペナルティまたは故障による得点の調整が入力されていることを確認する。
  - 欠場(DNS)、途中棄権(DNF)、失格(DSQ)の場合は、成績表に正しい注釈と凡例が入力されていることを確認する。





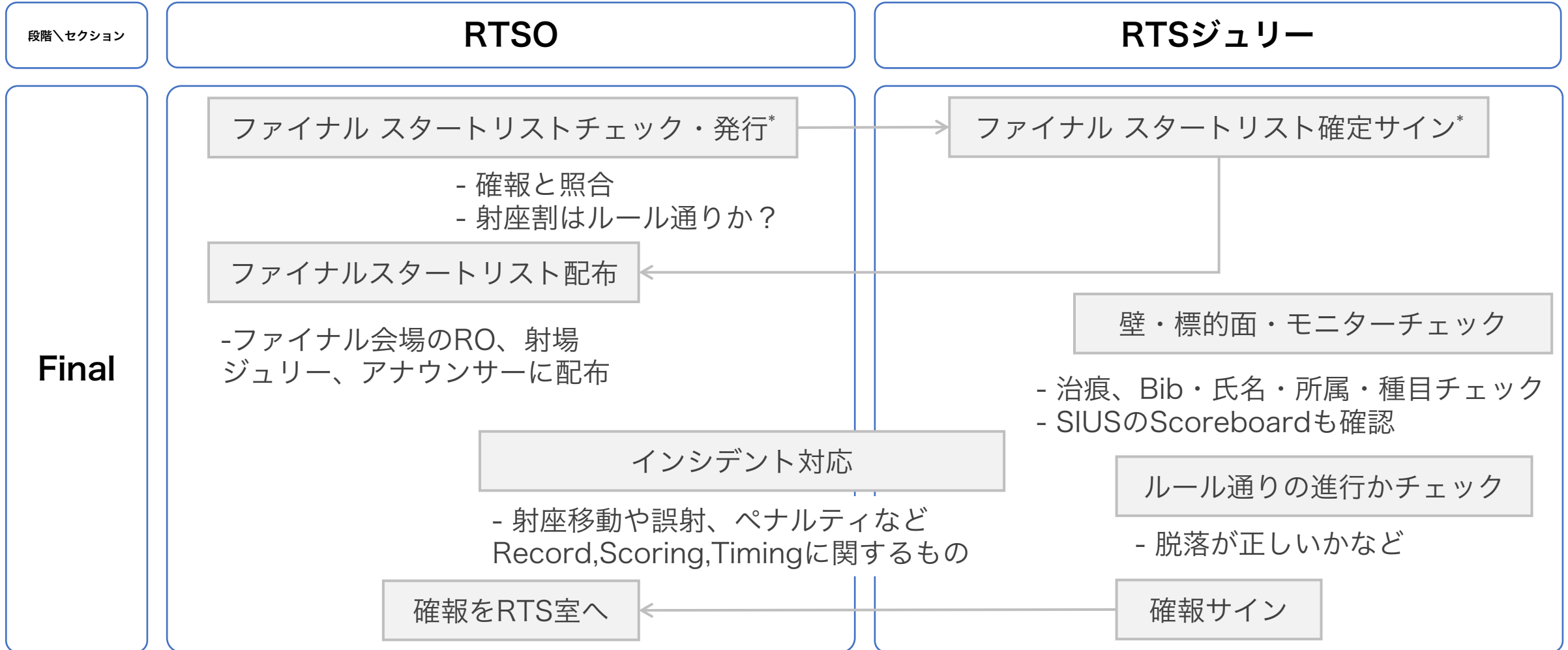
## 業務の流れ - 本選 -

- 速報を貼り出してから10分経過
  - 抗議がなければ、その射群の成績は**確定**。
  - 抗議があれば、 Jury が引き続き問題の解決を…。
- 確定後に選手から成績の修正の申し出があった。
  - 即却下！
  - 選手や**保護者**にルールを教えてあげてみましょう。
    - 保護者 = ジュニア選手の一番の支援者
    - 支援者がルールを知っていることも大切です！





# 業務の流れ - Final -



【出典】 ライフルスポーツ2023年1月号 p.14~15 をもとに作成

\*長、主任の仕事



## 最後に

- 「兼任の選手がいるので…」  
「役員に負担を掛けたくない…」
- 気持ちは分かります。
- ですが、成績処理を間違えば、  
結局は **ただの言い訳** になってしまいます。





# 最後に

- そもそも、人が確保できない
- (あくまでも個人的な見解ではありますが)ライフル・ピストルジュリーや射場役員(RO)と兼務でも構いません。  
**正確に**成績を処理することを考えましょう。

- コンパクトな競技会に応じた、コンパクトな人員配置を心掛けましょう





# 最後に

- RTSが扱っているものは、
- 選手の最大の成果物である **「得点」**
- 選手が今まで掛けてきた練習などの、  
またその試合自体の **「時間」**
  
- **最優先で、大切にしましょう。**
- 正確な成績をニチラネットにアップできるようにしましょう！





# 最後に(RTS以外にも…)

- 【野球規則】 「審判員に対する一般指示」 より抜粋
  - 試合を停滞させてはならない。試合は、しばしば審判員の活気ある真剣な運びによって、より以上の効果をもたらすものである。
  - 審判員は、競技場における唯一の代表者であって、強い忍耐と、よりよい判断とを必要とするようなつらい立場におかれることがしばしば起こるが、悪い事態に対処するにあたっては、感情を棄てて自制することが、いちばん大切なことである。
  - 最後に、審判員は礼儀を重んじ、しかも公平にして厳格でなければならない。そうすれば、すべての人々から尊敬される。



# ROの業務

小野 広人

(Tokyo2020 NTO, 10m/50m Range Officer)



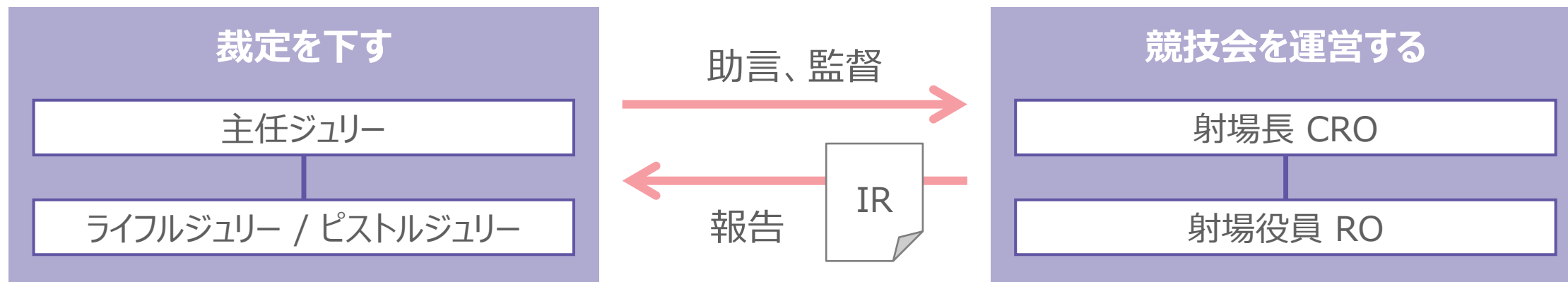
## ■ 射場長 (CRO = Chief Range Officer)

- 適切な運営（時間管理、射場整備）、射場役員(RO)・射場勤務員の統括
- **裁定はしない**

## ■ 射場役員 (RO = Range Officer)

- 10射座に1名程度を配置、自分の担当区域に責任を持つ
- 裁定が必要な事象は、**CROではなく Jury に報告**
- 事象（故障、抗議、妨害 etc.）発生時には、**時間を計測、事故報告書(IR)を起票**

Jury と CRO/RO は、  
お互いに独立した組織  
役割・責任範囲は明確に異なる



■ GTR 6.9.1 **射場長(CRO)**は **射場ごと** に任命されなければならない。

- 射場長はすべての射場役員と射場勤務員の統括者であり、競技種目の適切な運営に責任を負う。
- 射場長はすべての射場内の号令の発令に責任を負い、すべての射場勤務員が Jury に対して協力することを保証する責任をも負う。
- 射場長は射場設備の故障に対し早急な措置を行う責任を負い、射場を運営するために必要な専門家や資材を確保する責任を負う。
- 射場長の支援、特に種目や競技中に生じた不測の事態に関する射場の文書や射場事故報告書(IR)の維持管理、のために **副射場長の任命を強く推奨する。**

■ GTR 6.9.2 **射場役員(RO)**は **標的グループの各セクション** または **10射座ごと** に任命されなければならない。

- a. 射場役員は担当する射座区域において**射場長の指示を実行させる**責任を負わなければならない。
- b. 射場役員は選手の名前とBib番号をチェックして、射座割表と一致していることを確認しなければならない。
- c. 射場役員は選手の銃、用具および装備が検査、承認されていることを確認しなければならない。
- d. 射場役員は選手の射撃姿勢をチェックし、**不審があれば Jury に報告**しなければならない。
- e. 射場役員は**射場長の号令が伝わっているか確認**しなければならない。
- f. 射場役員は競技中に生じる故障、抗議、妨害または他のさまざまな問題について必要な行動をとらなければならない。
- g. 射場役員は**口頭の抗議を受理し、Jury に引き継がなければならない。**
- h. 射場役員はすべての不測の事態、妨害、罰則、銃器故障、誤射、許可された追加時間、承認された再射などを**事故報告書(IR)、標的上またはプリンター用紙に適切に記録**する責任を負わなければならない。
- i. 得点に関して、選手と会話したり、コメントすることは控えなければならない。

# 業務内容：大会開始前

## ■ GTR 6.4 射場とその他設備 RANGES AND OTHER FACILITIES

- 射場設備（射座・標的・用具検査室・銃器手入室・得点掲示板・更衣室・休憩室・トイレ etc...）を TD(テクニカルデレゲート)・CROの指示の下、適切に準備する ※適宜、他の射場勤務員と役割分担する
  - ✓ 標的が正しく設置・動作しているか
  - ✓ 標的マスク・ロール紙の確認・整備
  - ✓ 壁・標的枠・標的面の治痕
  - ✓ 競技の実施に必要な備品の確認、管理
- 大会期間中に安全と公平が保たれるように、そして選手が気持ち良く競技して良い成績を出せるように、気づいた点があれば、CROに報告/提案する



# 業務内容：PET、公式練習（および全般）

■ ROは、**担当する区域（射座）**で射撃競技が正しく行われることに責任を持つ

- CROは、ROほか役員を統括し、担当する射場全体で射撃競技が正しく行われることに責任を持つ
- ROは、**担当区域の選手に注意を払い**、選手に問題が発生した時（選手が手を上げた時）には**選手と会話して、問題の本質を確認する** ※他の選手を邪魔しないように注意

本選中の場合

→ 簡単なことなら、選手が射撃を再開できるよう適切に対応する

抗議、複雑な事象、判断に迷う場合は、**時刻をメモして**ジュリーを呼び、**事故報告書(IR)**を起票

■ PETや公式練習では、**選手の射撃姿勢を観察し、違反の可能性をジュリーに知らせる**

- 選手の背後に立ち続けたり、選手の背後で他の役員と議論するのは、選手にとって非常に邪魔！
- 選手が**セフティフラッグ**を正しく使用していなければ、**穏やかに指摘する**（指で指し示すだけでも充分）  
選手が射座を離れる/銃を片付ける際は、**セフティフラッグを挿入 = 弾が装填されていないことをROが確認！**

# 業務内容：本選

## ■ ATL前

- 担当区域の確認（誰が何的を担当？） 他の役員の顔と名前、業務の流れを確認
- 射場整備はATL前に完了していること！

## ■ ATL後

- 選手のBib(ゼッケン)とスタートリスト(射座割)が一致することを確認
- 欠場(DNS)がいたらIRを起票 → スタートリストへの反映にIRが必要
- コントロールカードと、銃番号、ジャケット・ズボンの用具検査(EC)シールの一致を確認
- 選手が銃を取り出した時、セフティフラッグを挿入していることを確認する  
→ 他の準備をする前に、最初にセフティフラッグを挿入させる

# 業務内容：本選

## ■ 事故報告書(IR)

- 競技中に発生した事象（故障、抗議、妨害 etc.）は全て、**事故報告書(IR)**を起票する。
- IRの用紙は、**CROから貰う**。ROがIRを書く時、 Juryは側に付いて助言する。
- **口頭抗議を受けたら、直ちに Juryに報告する**。 Juryは、IRを起票するか否かを判断する。

## ■ コーチング

- コーチが射座内に入らなければ、選手・コーチ間の非言語コーチング（身振り手振り）はOK
- 選手は**ROに知らせた後で**、射座を離れることができる。ROはセフティフラッグの挿入を確認！
- コーチが選手と話したい場合、**射座から選手を呼び出すよう、ROまたは Juryに依頼する**。  
(選手の銃に弾が装填されている場合は、**撃つまで待ってから選手に近づき**)  
選手の肩を軽く叩いて、コーチを指し示す。**話す必要はない**。

■ 選手が撃ち終わったら、**ジャーナル**に署名させ(必須ではない)、**速やかにRTSへ渡す**

## ■ 競技後検査

- 用具検査(EC)ジュリーからCROに、競技後検査の対象選手が知らされ、検査票が渡される。CROは、対象選手の射座を担当するROに検査票を渡す。
- ROは**検査表の内容が見えないように伏せて置き**、対象選手が射撃終了後、**ジャケットのボタンを外す前に**、選手に検査票を示して対象であることを知らせる。
- 用具検査役員(ECO)の人手が足りない場合、ROが選手を用具検査室まで連れて行く。**ROは選手の後ろを歩き**、選手がルール違反の可能性のあるものを変更・隠蔽しないよう注視！

## ■ STOP後

- 担当区域の全ての銃が片付けられ、安全な状態になったことをCROに合図
- CROによる**「Range Clear」の号令後**、射撃線の前に出て標的等の射場整備

# ROの心得

- 選手にとって、大会が問題なく進行し、実力を充分に発揮して、良い成績が出せる大会を実現する。
  - 運営の中では様々なトラブルが起きても、それをできるだけ選手に影響させない。
  - 失格を出さない。
    - PETやATLで選手をよく見て、際どい場合は選手やコーチと事前に確認しておけば全ての選手がルール内で実力を競う大会にできる。
  - 主役は選手。ROはそれをサポート。
    - どちらかが上位ではなく、お互いに敬意を払い、協力して大会を運営する。

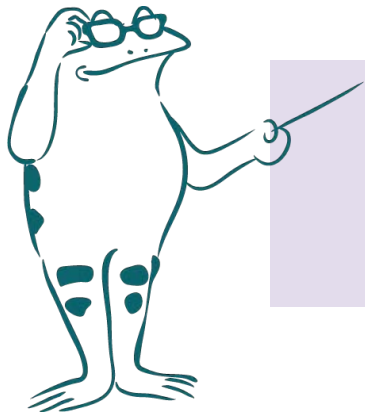


# 競技役員としての心構え

講師：横山 幸子

## [再掲]本講習会の目的

- 競技役員の**業務や役割、心構え**を理解する
- 技術や知識を**確認・アップデート**する



競技会の公正で円滑な運営を実現する

# アンケート回答のお願い（任意）

今後の参考にさせていただきます

参加シールの送付はございません



<https://forms.gle/TWcRxMA3gin8ayHy8>